

会 議 録

会議の名称		平成 29 年度第 2 回つくば市公共交通活性化協議会		
開催日時		平成 29 年 8 月 10 日 開会 15:00 閉会 17:00		
開催場所		つくば市役所 6 階 全員協議会室		
事務局（担当課）		都市計画部総合交通政策課		
出席者	委員	石田委員，塙委員（代理：岡崎様），新井委員，瀬戸下委員，吉本委員，武藤委員，寺門委員，小林委員（代理：飯田様），浅野委員，吉場委員，星野委員，高野委員，沼尻委員（代理：塚本様），田中委員，大澤委員，江戸委員，高巢委員，坂本委員，一色委員，宮崎委員，小原委員，小田倉委員，栗原委員，長島委員		
	その他	なし		
	事務局	中澤課長，中山課長補佐，細谷係長，名田係長，渡辺主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1 名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業報告について ・平成 28 年度歳入歳出決算について ・平成 29 年度事業計画(案)について ・平成 29 年度歳入歳出予算(案)について ・つくば市公共交通活性化協議会規約の改正について ・まつりつくば 2017 開催日における「つくバス 1 日乗車券」料金減額について ・平成 28 年度つくバス，つくタクの利用実績について ・交通体系の改編について 		

様式第1号

会議録署名人	—	確定年月日	平成	年	月	日
会議次第	1	開会				
	2	挨拶				
	3	議案				
		議案第1号 つくバス運行計画（案）について				
		議案第2号 広域連携バス運行計画について				
	報告案件1 平成29年度第1四半期つくバス・つくタク利用実績					
	報告案件2 交通体系の改編について					
	報告案件3 「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会について					
4	その他					
5	閉会					

<審議内容> ○：委員 ●：事務局

1. つくバス運行計画（案）について

●事務局：谷田部シャトルにおいて、みずほ団地付近にバス停を新設することについて、当日資料に基づき説明をおこなった。さらに、現在、みずほ団地自治会内で意見をとりまとめている状況であることを説明した。

○委員：現在、自治会内で意見をとりまとめているとのことだが、今日の協議会では、設置の決定をするということか。

●事務局：当初、みずほ団地の自治会からは、団地の中を運行してほしいという要望であった。その点については、現在の車両のサイズでは団地からでてこられないため、その代替として、谷田部萱丸線

様式第1号

付近にバス停を新設できないか、というのが本日の案である。

自治会とは、自治会役員と現地で打ち合わせを既に実施しており、現在自治会で意見を取りまとめているという状況である。

協議会では、この状況であることを認識していただき、自治会がその場所での設置に了承してもらえれば、本委員会委員には書面で承認していただきたい。

○委員：団地の中までは入れないまでも、バス停が今より少しは近くなる。

便利になっていいと思う。資料内の地図では、現停留所（みずほ団地入口）付近にも住宅地がある。移設や廃止に関する反対派はいないのか。

●事務局：この地域については現在開発の途中で、人口がまだまだはりついてはいないが、現停留所の移設、廃止については検討させていただきたい。

○委員：無くすことを決めているわけではない、ということか。

●事務局：現地の住民との話し合いが必要と思う。

2. 広域連携バス運行計画について

●事務局：桜川市が運行する、桜川市・つくば市間広域連携バスの運行が平成29年10月1日付で変更となること、それに伴い、つくば市地内に上大島バス停が新設されることについて、資料に基づき説明。

○委員：内容に関する質問、意見なし。

3. 平成29年度第1四半期つくバス・つくタク利用実績について

●事務局：当日資料に基づいて、平成29年度第1四半期つくバス・つくタク

利用実績を説明。

○委員：電話応答率は、4月から変えたということだが、住民には周知したか。当日以降の予約時間を、正午から夕方5時までにしたということについて、もし午前中に電話があったら、午後かけなおしてもらおうという方式をとっているのか。

●事務局：システムの変更については、つくタクガイドで事前周知をした。つくタク自宅登録者には郵送をおこなった。また、事前につくタク車内に配布したことで、円滑に進んだ。4月は、午前中に当日以降の電話がかかってくる間違いはあったが、6月時点でほぼいない状態。間違えた人には、昼からであることを説明し、かけなおしてもらっている。

○委員：資料を見る限り、オペレーターを増やしたので、電話は今までより若干つながりやすくなったようだ。その分、お断り件数は増えたということである。全体的なサービスの向上は、どうしていくかというのは、なかなか難しい問題である。タクシーを増やしたり、オペレーターを増やしたりすることには、お金がかかっている。お金の問題も踏まえて、見直しについての議論をしていただきたい。

4. 「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会について

議論を円滑に進めるため、報告案件の順番を入れ替えた。

●事務局：当日資料に基づいて、「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会の結果、要望等を説明。

●事務局：地区懇談会を22回開催し、市民からの要望は、資料を見るとわかるように、市内全域にわたるような交通がほしいということに至った。現状22台のバスでつくバスを運行しているが、この要望をどこまで叶えられるか、バスの増台やバス停の新設ができるか精査し

ていかないといけない。市域は平らで広い。全域を回るバスが困難なことはわかるはず。バスは細かいところまでは入っていけない。そこも含めて市で整理をさせていただきたい。

○委員：地区の懇談会にも出席して話したが、北条に小中一貫校ができる。児童生徒は、広範囲から通学する。スクールバスはあるようだが、それでは間に合わない。北条を中心にしたバスの路線の検討が必要だ。スクールバスだけで間に合うということはない。1,100人くらいの児童生徒が集まってくる。新しいバス路線を検討いただきたい。

○委員：自分の体験を話したい。1週間前に車が壊れた。住んでいる場所から市役所の会議が10時にあったため、路線バス・つくバスを使って移動した。移動に1時間半ほどかかった。そこで費やした時間と、金額について、大変な思いをしたが勉強になった。

●事務局：バスの利用者が伸びているのは使いやすい路線を作ってきた結果と考えている。要望は様々あるが、それを受け止めた上で、実態がどうなっているのか、需要がどう発生しているのかをアンケートなどでつかんで、よく検討をしていきたい。

○委員：前もって地区別懇談会の資料を見て、やはり要望型の意見が多い。それぞれもっともな要望だが、それを100%実現することは極めて難しい。本当にできること、必要なことの見極めと、地域で生活をしている、事業をしている人の日常での考え方が大事。よく考えて議論したい。

5. 交通体系の改編について

●事務局：当日資料に基づいて、つくバス・つくタクの改編の考え方・進め方について説明をおこなった。

○委員：資料5のP6につくば市の支線の手法に企業の送迎バスがある。

西部工業団地の送迎バスをよく見るが、日中も昼頃動いている。乗っている人はあまりいない。それを利用できないか。積極的に企業に対して調査をしてもらいたい。社会貢献をしたい企業もあるはず。

○委員：企業送迎バスについては、そのとおりだと思う。利用できるものは利用したほうがお互いにいい。ただし、法制度の制限がある。例えば、企業の人を無料で載せているならよいが、有料になると営業に関する免許が全く違う。乗り越えて頑張っている自治体もあるので、参考にしてほしい。

○委員：大穂窓口センターは交通のハブという意味で成功している。他の窓口センターはそうになっていない。私は、大穂の交通拠点の使い方をみていて、パークアンドライド・キスアンドライド・自転車といったアクセスがすでにできていると感じる。この成功を分析することが、他の場所を考えると時のカギになるのでは。

●事務局：大穂窓口センターは、北部シャトルが入っており、30分に1本という高頻度さが、利用者の多い原因と考えている。また、北部シャトルは直行性がよく、料金も筑波山口から400円ということで利用しやすい。大穂に、地域開発によって人がはりついたことも大きい。さらに、作岡シャトルが乗り入れていることによって、結节点的になってきた。バス待ち環境もよい。

今後は地区懇談会でも説明したが、交通結节点という考え方を広めていかないといけない。大穂のような事例をいくつか作りたい。路線バスを含めた結节点を作っていきたい

○委員：いいことを徹底的に学んで、ほかに適用することが大事。大穂については、市全体のまちづくりの中で、ハブ機能、拠点としての位置づけがされていて、土地利用もそうなりつつあることが大きい。

他の拠点にもそのまま適用できるかという問題があると思うが、適用できることはあるので分析する必要がある。

○委員：事務局で、懇談会を実施し、それを今日の資料のレベルまでとりまとめたことは大変だったと思う。これを全て取り入れようとするとうと財源は足りないところだと思う。つくば市は人口増加トレンドにある。人口が減少トレンドであれば、利用が少ない路線をあきらめて、他をのぼすという考え方もあるが、どれも堅調に増えている中で、これを維持しながら、ほかに対応するという難しい局面になるかと思う。予算規模を、どの程度許容するつもりがあるのか、可能な範囲で基本的な方向性を教えてもらいたい。

●事務局：一番頭の痛い問題である。財源を無制限に使えばなんでもできる。ただ、過去に循環型つくバスで使っていた金額をそのまま使うという考え方で、つくバス・つくタク合わせて4億円という金額をベースに推移させている。なるべくお金のかかるバスの購入も、5年くらいで平準化して払うなど、工夫して金額を推移させている。どこまで一般財源の投入ができるかについては決まっていない。

北部シャトルのように、収入で費用をまかなえるようになれば路線は増やせるが、それ以外の路線は、まかなえていない。

お客さんに乗ってもらって維持していきたいというのが基本的な考え。もうひとつは、バス以外につくタクがある。懇談会でも示したが、1回市民を運ぶと2500円市の持ち出しがある。

運行経費が減ってくれば、サービスの拡充できる。市民の経費負担も含めて考えていかないといけない。要望では低料金と言われているので、課題は大きい。費用がどこまで使えるかは未確定。

○委員：今の市長は、公共交通は大事な問題として捉え、理解が深いと

思っている。資料5 2ページの策定の進め方の中で、「現況及び意向」がある。超高齢社会、教育環境などの社会状況を含めて、利用者特性と需要の特性をとらえることが必要。つくバス・つくタクは、細かいデータをとっている。それをどう使いこなしていくかが大事。改編に向けた考え方は書いてある通りであると思う。大事なことなので頑張ってもらいたい。

○委員：地区懇談会の資料の中で、今鹿島地区のバスの利便性について記載がある。今鹿島の場合は、作岡シャトルが大砂・長高野を通って西大通へでて、吉沼シャトルが田倉を通って、豊里中学校など平塚線を通る。ちょうど今鹿島の南と北を横断していく形である。今鹿島は南北に長いし、停留所を変えることは難しいとは思いますが、検討してもらいたい。

○委員：資料5 3ページの右上に市民説明会で意見聴取とあるが、今回の地域懇談会並みの規模で実施するのか。

●事務局：改編の素案の段階で、各地域で説明をしたい。詳細は未定である。

○委員：資料5 5ページに赤字で「つくバス（つくバス支線）」と書いてあるのは、規模の小さいバス路線を、窓口センターなどをハブにして循環するようなイメージか。

●事務局：地域をまわる循環型の公共交通をイメージしている。バスで運行すれば、全てつくバスということではない、もう少し分け方があると考えている。

○委員：名称が「つくバス」にならないかもということですね。幹線性が高く、バス停間隔も長いものではなく、狭い範囲をまわるようなものということでよいか。病院送迎バス、企業送迎バスは、免許制度が大変だと思うが前向きに挑戦して欲しい。地域主体の交通も、なかなか大変。いろいろなところと調整、お願いしなければなら

ない。

○委員：病院送迎バスについて、どなたかから指摘があったが、つくバス・つくタクは、病院に通う人が多くを占めている。病院送迎バスを使うことも案だが、病院と市がウィンウィンになるやり方、例えば、広告をのせられるから、病院から賛助会員になってもらうなどもあり得るのかなと思っている。

また、高齢化社会になっており、高齢者の運転事故が増えているため、免許返納を進めることができればと思っている。つくバス・つくタクのチケットを配るなどがあっていいかもしれない。

●事務局：免許返納については、大きい金額ではないが、つくバス・つくタクのチケットを選択制で、免許残存期間に応じて交付することを制度として行っている。

○委員：改編していった場合に、直行できたところが、乗り継ぎが必要になることもあると思うが、料金的にどうなるか。乗り継ぎで高くなるかもしれない。料金についても検討課題として受け止めておいてもらいたい。